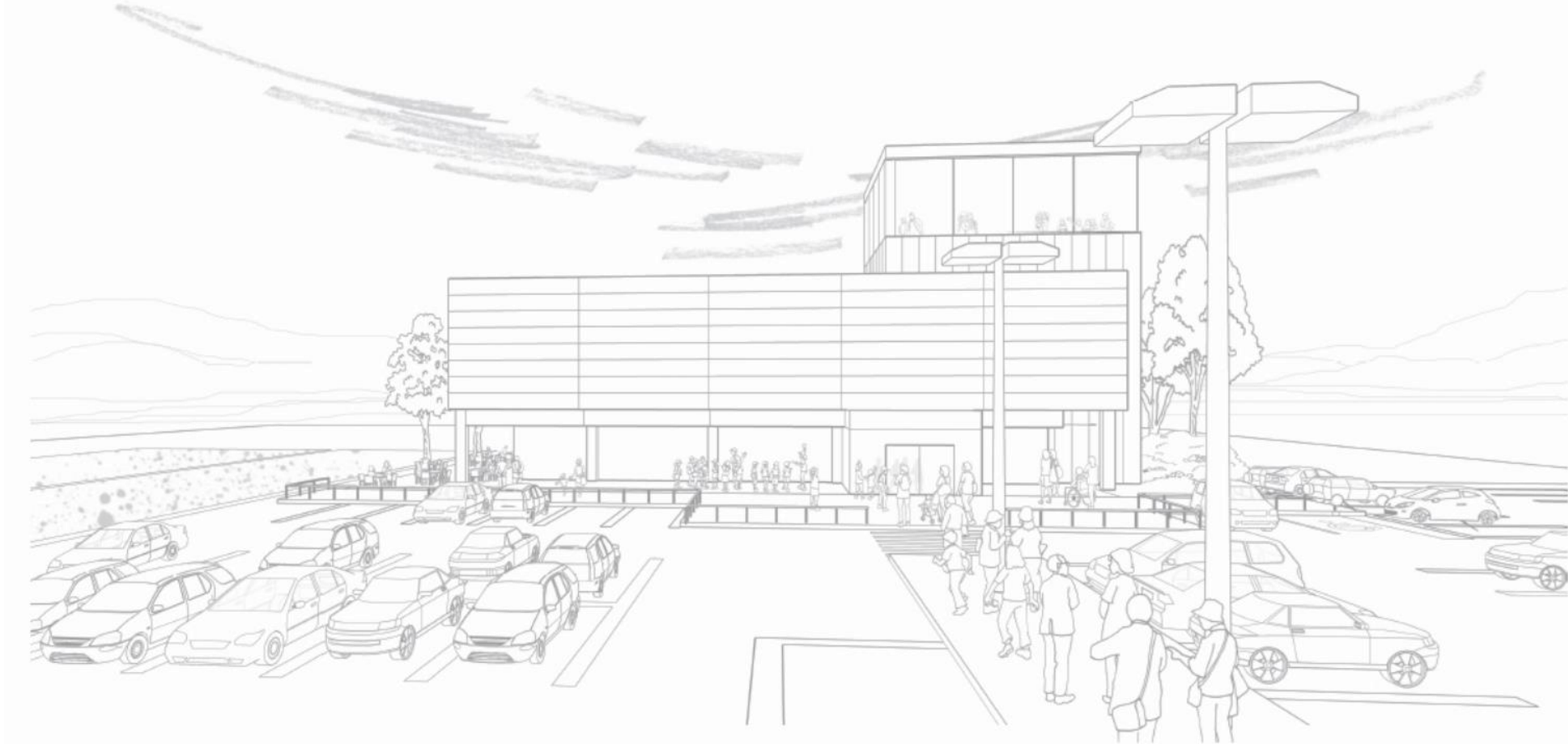


文化財展示施設の設置に関する市民説明会



日時 令和6年1月13日(土) 午後2時～、午後6時～
場所 伊豆の国市あやめ会館3階多目的ホール

新たな文化財展示施設を設置する理由・必要性

伊豆の国市は…

1 様々な時代の歴史文化が重層的に蓄積

⇒ 旧石器から現代に至る間の様々な史跡・文化財が重なるように残存

2 日本史における時代の変革の端緒を開いた地域

⇒ 平安から鎌倉への変革（源頼朝挙兵）、室町・戦国から天下統一への変動

（小田原北条氏の拠点）、江戸から明治維新（江川家・葦山反射炉）

3 狩野川を軸とした自然に育まれた歴史

⇒ 狩野川や周囲の山々、富士山を望む景観、下田街道、温泉

【参考】素案に掲載なし

	世界遺産 (構成遺産)	国宝	国指定史跡・特別史跡
静岡市	1 (三保松原)	3 (久能山東照宮本殿・石の間・拝殿、太刀 銘真恒、鉄舟寺法華経)	7 (賤機山古墳、朝鮮通信使遺跡 興津清見寺境内、小島陣屋跡、片山廃寺跡、久能山、東海道宇津ノ谷峠越、登呂遺跡)
浜松市			4 (二俣城及び鳥羽山城跡、光明山古墳、蜷塚遺跡、三岳城跡)
伊豆の国市	1 (萑山反射炉)	1 (木造阿弥陀如来坐像〈運慶作〉/木造不動明王及二童子立像〈運慶作〉/木造毘沙門天立像〈運慶作〉)	6 (萑山反射炉、萑山役所跡、願成就院跡、伝堀越御所跡、北条氏邸跡(円成寺跡)、北江間横穴群)

図：県内政令指定都市との史跡数等の比較

新たな文化財展示施設を設置する理由・必要性

現在は、伊豆の国市郷土資料館において紹介しているが…

- 展示室の面積が約100㎡
 - ⇒ 多種多様な文化財を有する本市の公開施設としては狭小
- 温湿度環境の調整機能が不十分
 - ⇒ 山木遺跡出土品（※）などの展示が不可
- 市内の史跡などが集中して存在する地域から離れて立地
 - ⇒ 学校での地域学習や来訪者の周遊との連動性確保が困難

※ 国指定重要有形民俗文化財「山木遺跡の生産・生活用具」（後ほど紹介）

新たな文化財展示施設を設置する理由・必要性

そもそも文化財の公開とは…

- できるだけこれを公開する等その文化的活用に努めなければ
ならない（※）
- これまで市が公費で実施してきた調査・研究・保存の成果な
どを市民に還元するもの
⇒ 現状は還元できていないということ

※ 文化財保護法第4条第2項

「文化財の所有者その他の関係者は、文化財が貴重な国民的財産であることを自覚し、これを公共のために大切に保存するとともに、できるだけこれを公開する等その文化的活用に努めなければならない。」

【参考】素案に掲載なし

公開できていない、還元できていない文化財の代表例

国指定重要有形民俗文化財「山木遺跡の生産・生活用具」

- ・ 指定年月日 昭和41年6月11日
- ・ 員数（数量） 239点
- ・ 所有者 伊豆の国市
- ・ 解説 この資料は、昭和25年に発掘された旧葦山村山木の山木遺跡から出土した遺物である。木器および土器類などの生活用具のほか、農耕関係の用具類などがある。保存状態もよく弥生時代後期（約1800年前）の生活を知る上で貴重であり、また後世の生産用具や生活用具との関連を知る上できわめて重要なものである。

【出典：文化庁国指定文化財等データベース】

【参考】素案に掲載なし

公開できていない、還元できていない文化財の代表例

国指定重要有形民俗文化財「山木遺跡の生産・生活用具」

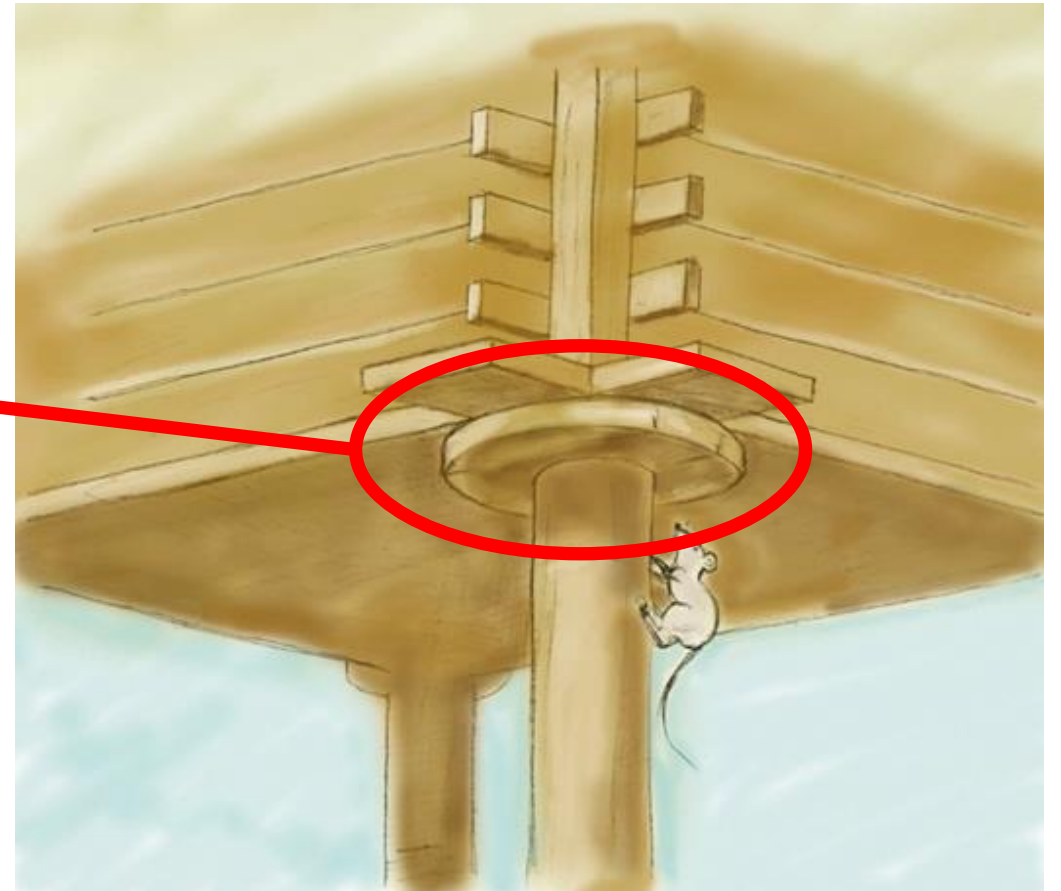


椅子

【参考】素案に掲載なし

公開できていない、還元できていない文化財の代表例

国指定重要有形民俗文化財「山木遺跡の生産・生活用具」



新たな文化財展示施設を設置する理由・必要性

これらの課題解決に向けて…

「本来、伊豆の国市にあるべき施設」を設置するもの



図：外観イメージ案（素案P. 41掲載）

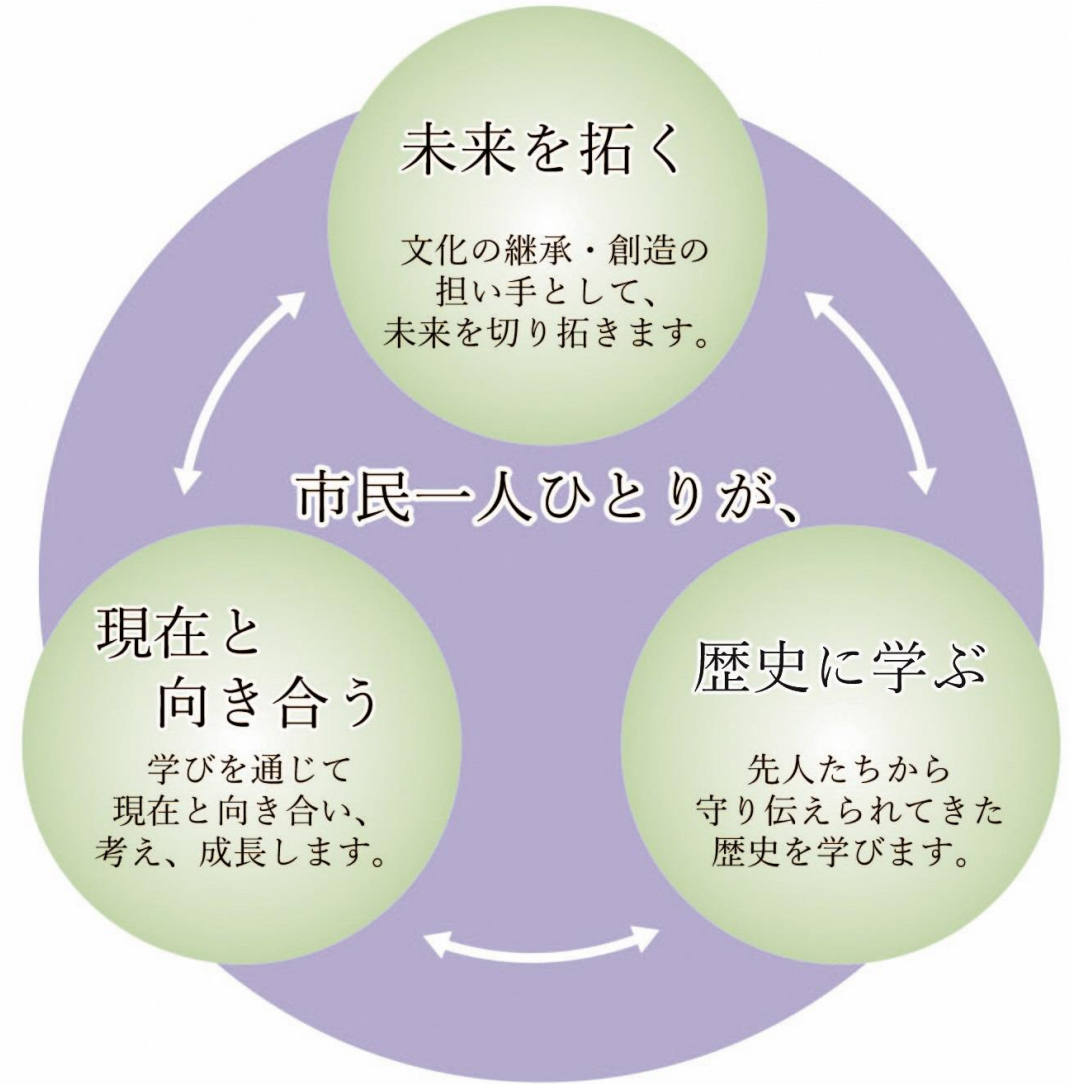


図：常設展示イメージ案（素案P. 48掲載）

基本理念（目指す姿）

**歴史に学び、
いま
現在と向き合い、
未来を拓く人を育む**

伊豆の国市の歴史に触れ、感じ、
学び、そして、フィールドを巡る
拠点となる空間



図：基本理念（目指す姿）（素案P.10掲載）

基本理念（目指す姿）の実現に向けた基本方針

- 1 伊豆の国市の多様な歴史文化の本質や価値、魅力を発信する空間
- 2 地域の学習拠点となる空間
- 3 地域の貴重な文化財を次世代に継承する空間 **【新規】**
 - ⇒ 重要文化財などの歴史資料の展示・公開と保存を両立できる環境を整備
 - ⇒ 施設外の文化財を次世代に継承するための拠点として、他施設との一元的な調査・研究、情報集約などの連携の下に、保存・活用に向けた取組・活動を推進
- 4 地域の交流拠点となる空間
- 5 市内の歴史・観光周遊の拠点となる空間
- 6 環境やユニバーサルデザインに配慮した空間

教育普及活動における基本的な考え方と具体例

- 1 多様な利用者層に対応した情報の提供
⇒ 誰もが楽しく分かりやすく学ぶことができる場（体験学習・展示解説冊子など）
- 2 現地での体験や実物資料を通じた多角的な学びの促進
⇒ 現地での体験や実物資料ならではの価値・魅力の発見を通じ、探求心の醸成や多角的な学びを促進（ハンズオン展示・体験学習セット貸出など）
- 3 歴史に学び、本市の人と未来を拓くプログラムの創出
⇒ 本市の歴史文化を次世代へと守り伝え、未来を創出する取組として、他施設との連携や利用者同士の交流などのプログラムを展開（研究成果発表など）

市内小中学生へのアンケート結果

【参考】素案に掲載なし

- 1 目的 文化財展示施設の設置に向けて、小中学生に対し、その計画の周知を図るとともに、施設及び展示内容等の検討の参考とするため
- 2 期間 令和5年11月27日（月）から12月7日（水）まで
- 3 対象 市内の小学5、6年生及び中学1～3年生
- 4 回答方法 LoGoフォームによる回答
- 5 回答率
 - (1) 小学5、6年生 87.1%（683／784人）
 - (2) 中学1～3年生 69.9%（802／1,148人）

市内小中学生へのアンケート結果

【参考】素案に掲載なし

6 特記事項

(1) 市内文化財等の認知度について（「知っている」との回答割合）

史跡等名称	小学5、6年生	中学1～3年生
葦山反射炉	93%	92%
江川家住宅（江川邸）	75%	77%
葦山城跡	57%	56%
願成就院跡	39%	43%
北条氏邸跡（円成寺跡）	22%	34%
北江間横穴群	18%	18%
伝堀越御所跡	2%	1%

市内小中学生へのアンケート結果

【参考】素案に掲載なし

6 特記事項

(2) 現伊豆の国市郷土資料館の見学の有無

「見学したことがある」との回答は、小学生が33%、中学生が25%

※ 現在、授業で見学しているのは、大仁小学校のみ

(3) あると良いと思う施設機能・スペースなどについて
選択式（15項目）の設問に対する上位3項目の回答

機能・スペース等	小学5、6年生	中学1～3年生
飲食や休憩ができるスペース	65%	48%
市内や富士山等が見渡せる展望室	55%	40%
様々なワークショップ	57%	32%

施設の立地環境（整備予定地選定の理由）

1 郷土学習との連携、市民・来訪者の利便性

⇒ 市内の主な史跡などの中心に位置し、葦山駅から徒歩5分の立地でもあることから、児童・生徒の郷土学習及び来訪者の市内周遊の導入・拠点として最適

2 財政負担

⇒ 現状において市有地であることから、用地確保に係る新たな財政負担が不要

3 施設活動の効果的な展開

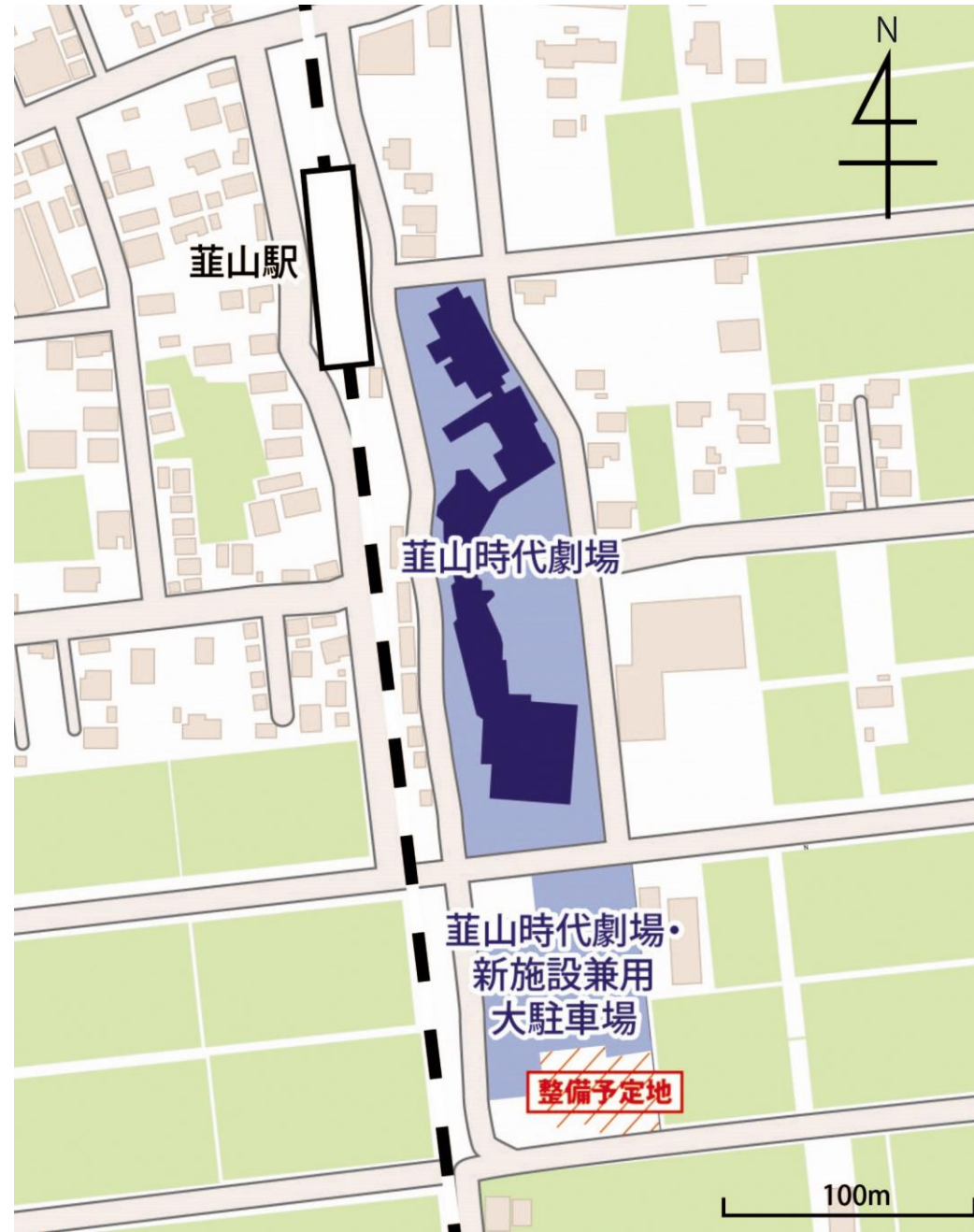
⇒ 葦山時代劇場に隣接していることから、講演会や体験学習、ワークショップなどを同劇場内の施設で開催するなど、一体的な利活用が可能

施設の立地環境



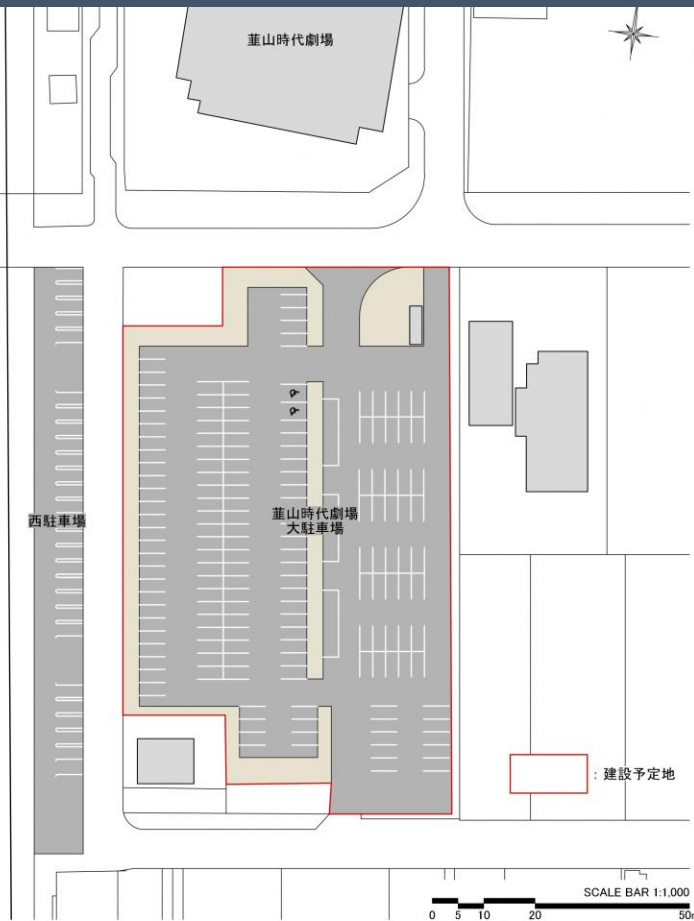
図：周辺環境と国指定文化財の位置
（素案P. 30掲載）

施設の立地環境



図：整備予定地と葦山時代劇場の位置
（素案P. 31掲載）

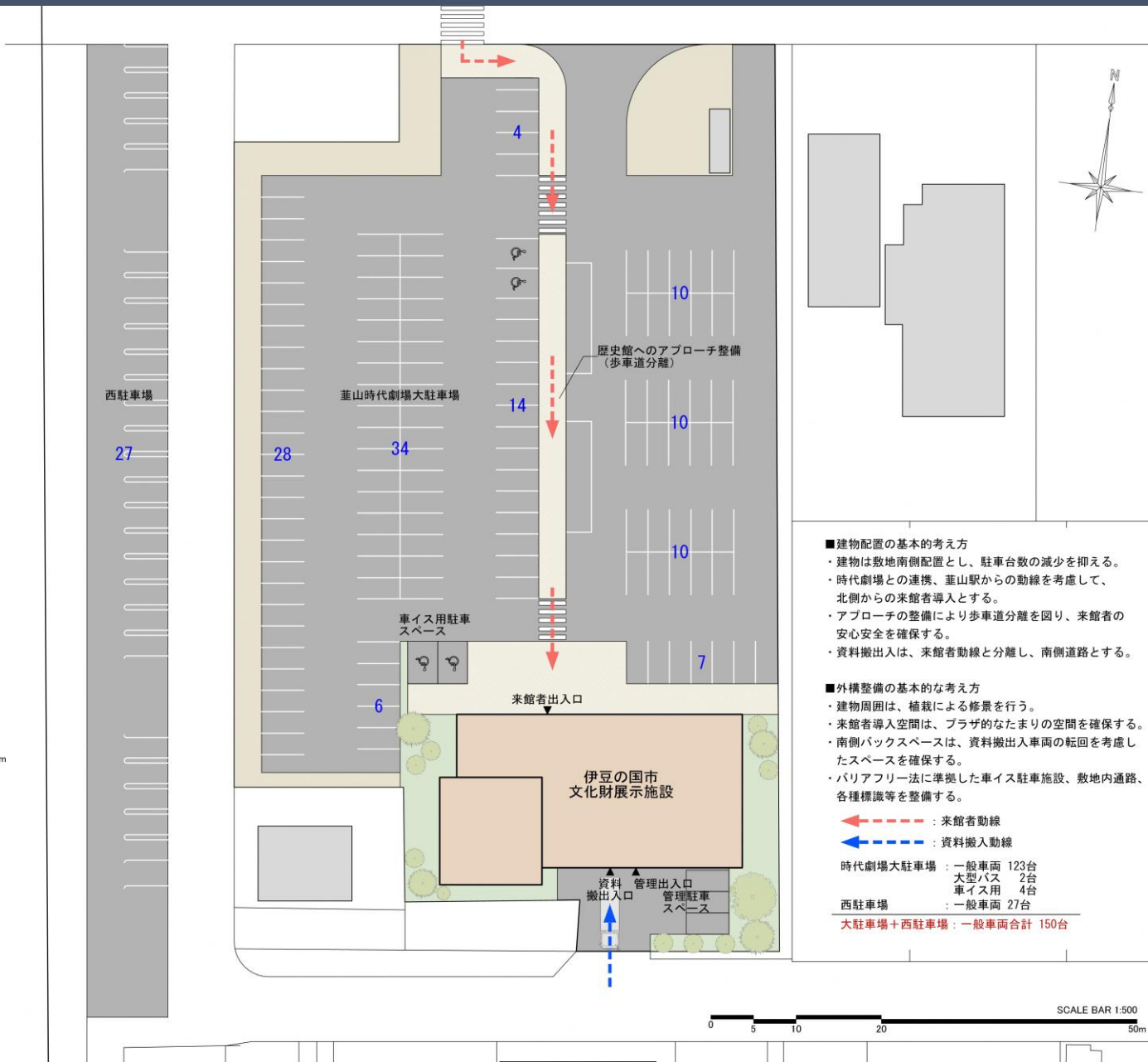
基本計画（素案） 第5章 施設整備計画 3. 敷地条件と配置計画（P. 32～）



現況敷地図 S=1/1000

■敷地条件

- ・地名地番 伊豆の国市四日町800番1（未確定）
- ・敷地面積 約6,283.6㎡（未確定）
- ・市街化調整区域
- ・建ぺい率 60%
- ・容積率 200%
- ・高さ制限 道路斜線：幅員×1.25
隣地斜線：立上り20m、勾配1.25
- ・防火地域 指定なし
- ・日影規制 なし
- ・他規制 特になし



配置計画図 S=1/500

■建物配置の基本的考え方

- ・建物は敷地南側配置とし、駐車台数の減少を抑える。
- ・時代劇場との連携、葦山駅からの動線を考慮して、北側からの来館者導入とする。
- ・アプローチの整備により歩車道分離を図り、来館者の安心安全を確保する。
- ・資料搬出入は、来館者動線と分離し、南側道路とする。

■外構整備の基本的な考え方

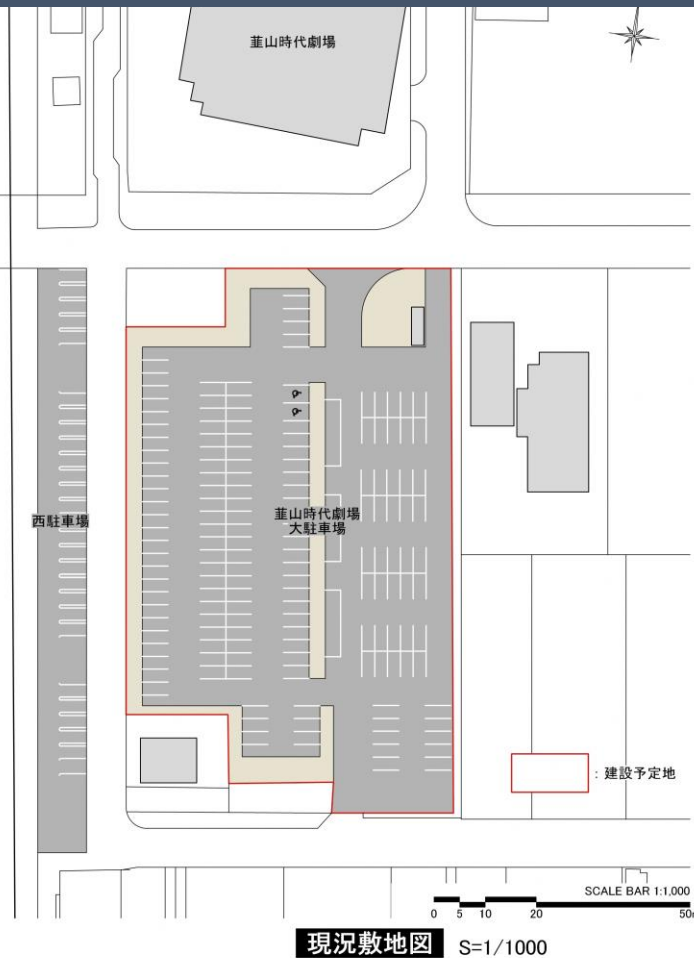
- ・建物周囲は、植栽による修景を行う。
- ・来館者導入空間は、プラザ的なたまりの空間を確保する。
- ・南側バックスペースは、資料搬出入車両の転回を考慮したスペースを確保する。
- ・バリアフリー法に準拠した車イス駐車施設、敷地内通路、各種標識等を整備する。

- ← 赤点線：来館者動線
- ← 青点線：資料搬入動線

時代劇場大駐車場	一般車両	123台
	大型バス	2台
	車イス用	4台
西駐車場	一般車両	27台
大駐車場+西駐車場		一般車両合計 150台

配置計画図
(素案P. 33掲載)

基本計画（素案） 第5章 施設整備計画 3. 敷地条件と配置計画（P.32～）



- 敷地条件
- ・地名地番 伊豆の国市四日町800番1（未確定）
 - ・敷地面積 約6,283.6㎡（未確定）
 - ・市街化調整区域
 - ・建ぺい率 60%
 - ・容積率 200%
 - ・高さ制限 道路斜線：幅員×1.25
隣地斜線：立上り20m、勾配1.25
 - ・防火地域 指定なし
 - ・日影規制 なし
 - ・他規制 特になし



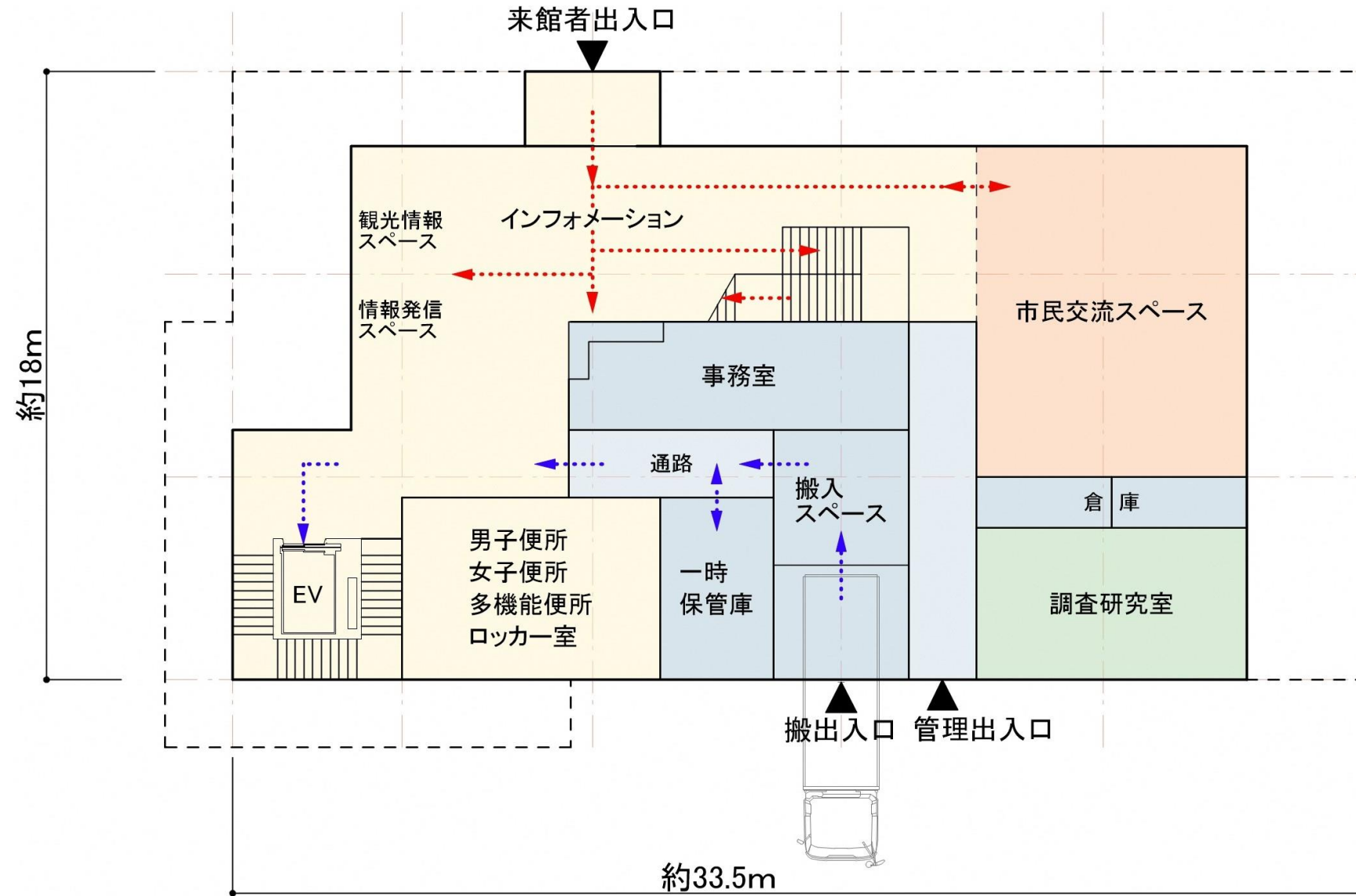
【参考】素案に掲載なし

- 建物配置の基本的考え方
- ・建物は敷地北側配置とし、駐車台数の減少を抑える。
 - ・時代劇場との連携、葦山駅からの動線を考慮して、北側からの来館者導入とする。
 - ・アプローチの整備により歩車道分離を回り、来館者の安心安全を確保する。
 - ・資料搬入は、来館者動線と分離し、西側道路とする。
- 外構整備の基本的な考え方
- ・建物周囲は、植栽による修景を行う。
 - ・来館者導入空間は、プラザ的なたまりの空間を確保する。
 - ・南側バックスペースは、資料搬入車両の転回を考慮したスペースを確保する。
 - ・バリアフリー法に準拠した車イス駐車施設、敷地内通路、各種標識等を整備する。
- ← : 来館者動線
← : 資料搬入動線
- 時代劇場大駐車場：一般車両 95台
 大型バス 2台
 車イス用 4台
 西駐車場 ：一般車両 27台
 大駐車場+西駐車場：一般車両合計 122台

葦山時代劇場との一体的な利活用

施設名称	規模・定員数など	事業など
大ホール	509席	講演会、セミナーなど
映像ホール	120名	セミナー、講座など
研修室 1	42名	会議、研修、ワークショップなど
研修室 2	24名	
リハーサル室 1	45名	
リハーサル室 2	20名	
和室	72名（33畳）	
アトリエ	24名	体験学習、ワークショップなど
アトリエ前スペース	約100㎡	火起こし体験、体験学習など
日だまり広場	約1100㎡	体験学習など
その他スペース（屋外）		学校団体昼食など
葦山図書館	蔵書数約67千冊	自主学习、各種イベントなど

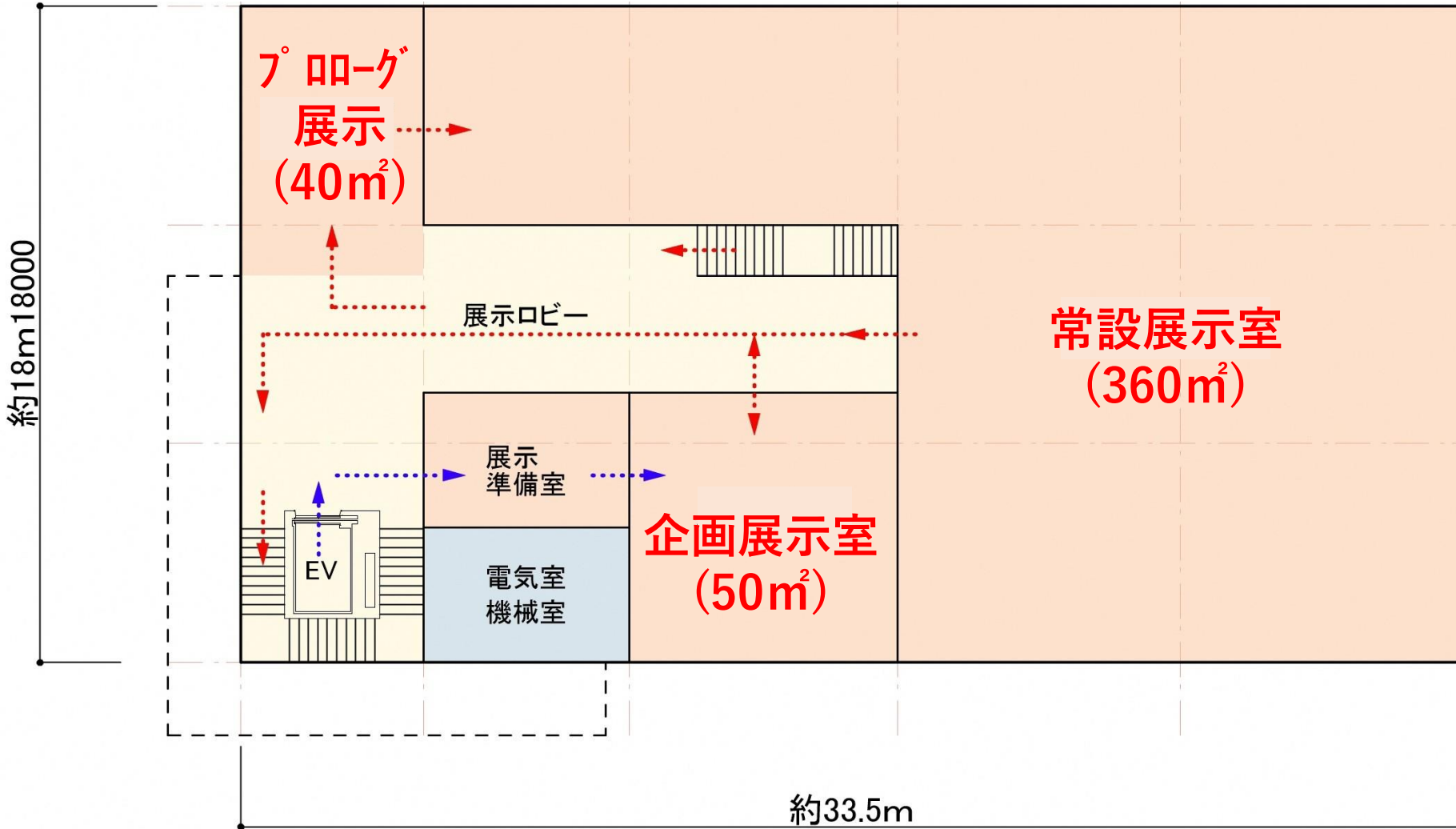
表：葦山時代劇場を利用した事業展開（素案P. 35掲載）



1階ブロックプラン 450m²

←····· 来館者動線
←····· 資料動線

図：1階ブロックプラン
（素案P. 37掲載）



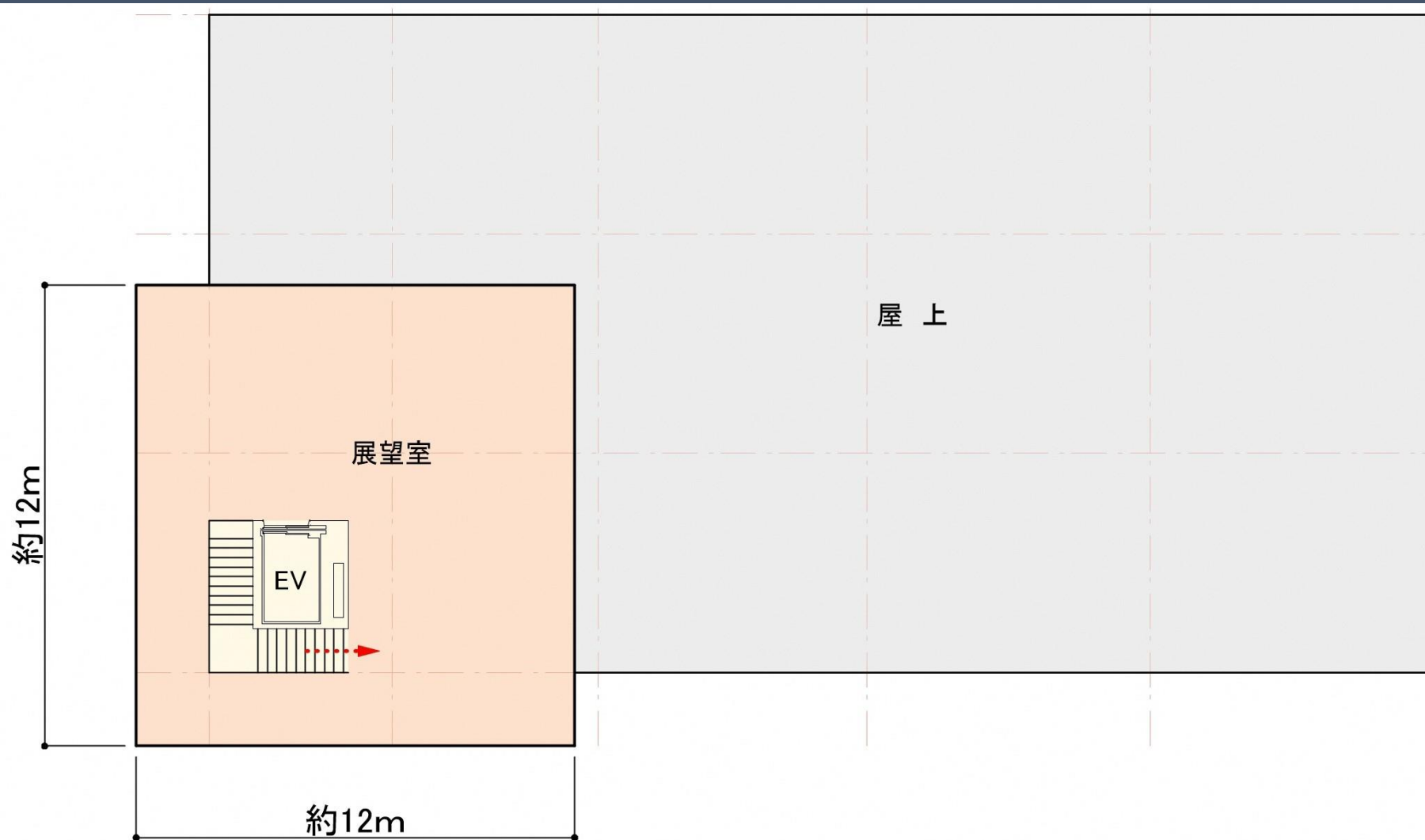
【参考】
あやめ会館3階
多目的ホール
= 約300m²

図：2階ブロックプラン
(素案P. 37掲載)
※ 一部加筆

2階ブロックプラン

600m²

← 来館者動線
← 資料動線



3階ブロックプラン 150m²

←····· 来館者動線
←····· 資料動線

図：3階ブロックプラン
(素案P. 37掲載)

展示コンセプト

伊豆の国市の歴史・文化のストーリーと魅力を発信

学び、体感を通じて過去と現代をつなぎ、

フィールドへ、そして未来へ

基本方針

- (1) 歴史と対話する展示
- (2) 伊豆の国市の歴史・文化の魅力を分かりやすく伝える展示
- (3) 学習効果を高める展示
- (4) 市内各地への周遊を誘う展示
- (5) 最新の調査・研究成果を伝える展示

展示テーマ・構成

IN

2F プロローグ展示

1. 伊豆の国市の礎と現代に続く歴史・文化を概観

1-1. 伊豆の国市の礎となった自然と地形

1-2. 原始から現代に続く伊豆の国市の歴史・文化

2F 常設展示室

2. 伊豆の国市で繰り広げられた歴史・文化

2-1. 人々の営みのはじまりから「イズノクニ」の成立へ

2-2. 武士の世のはじまりは伊豆から

2-3. 戦国時代のはじまりと終わり

2-4. 江戸幕府代官支配地としての伊豆の国市

2-5. 近代日本の夜明け

2F 企画展示室

3. 伊豆の国市の歴史・文化の多様なテーマ

3. 伊豆の国市の歴史・文化の多様なテーマ

3F 展望展示室

4. 歴史・文化の舞台を視覚的に体感

4. 歴史・文化の舞台を視覚的に体感

OUT

2F プロローグ展示 1. 伊豆の国市の礎と現代に続く歴史・文化を概観



図：プロローグ展示
イメージ案
(素案P.45掲載)

2F 常設展示室 2. 伊豆の国市で繰り広げられた歴史・文化



図：常設展示
イメージ案
(素案P.48掲載)

3F 展望展示室 4. 歴史・文化の舞台を視覚的に体感



図：展望イメージ案
（素案P. 50掲載）

整備スケジュール

	令和5年度	令和6年度	令和7年度
展示施設基本計画			
建築設計			
展示設計			
建築工事			
展示製作			

表：整備スケジュール
（素案P.58掲載）